

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和6年7月3日発行

子どもの感性

校長 高橋 高志

1学期が始まって3ヶ月が過ぎました。子どもたちの学習の様子を見に校舎内を回っていると、子どもたちの学習や作品の掲示に目が行きます。1つ1つに味があり、見ていて飽きることがありません。最近では、例えば次のような感じです。

- つぼみのいろはみどりです。かたちはたつまきです。かわいいです。もっとさいてほしいです。（1年教室：アサガオの観察）
- たのしみは 朝早起きの ウォーキング 母とならんで 道歩くとき（6年教室：国語「たのしみは」）
- 今まで、デコピンとかはゆるされると思ったけど、デコピンとかでもいじめになると知ることができてよかったです。（3年教室：いじめに関する講演の振り返り）
- わたしは、いじめをしてはいけないことは分かっていたけど、人を少しきずつけたことがあったかもしれないから、自分がされていやなことは、人にしてはいけないんだなと思いました。（4年教室：いじめに関する講演の振り返り）
- すいかをいっぱいいたべたいです。（児童玄関：七夕の短冊（1年生））
- ロシアとウクライナのせんそうがなくなりますように（児童玄関：七夕の短冊（2年生））
- 大きな地震がもうきませんように（児童玄関：七夕の短冊（5年生））



これらの掲示からは、子どもたちの身近な物事に感動する心や家族への温かい心、自分を見つめる姿、子どもなりの社会に対する思いなどを感じ取ることができます。また、大人にはない素直さや優しさに心が洗われます。同時に、「この豊かな感性をそのまま伸ばしてあげたいものだ」とも思います。

もうすぐ七夕、学校や家庭で夢中になる体験を重ねながら、小木っ子が豊かな感性をもった大人へと成長していくことを願っています。

